

市況等に関する月例報告書（５月分）

（平成２７年　５月分）

種　　類	市況の概況
（水産物部の動向） 水　産　物　全　般	５月の総入荷量は、鮮魚は台風６号の影響やよこわ、さばの漁獲不振などにより入荷減少し、また冷凍魚、加工水産物は円安の影響や原材料価格の高騰により高値で推移したことから需要が伸びず入荷減少するなど、前年同月と比べると９％下回ったため、取扱金額が３％下回った。
（区分別の動向） 鮮　　　　　魚	５月の総入荷量は、前年同月と比べると近海魚が全般的に入荷減少したことから７％下回ったため、平均単価は６％上回った。 品目別には、まぐろの幼魚であるよこわの漁獲不振から価格が７０％上回ったものの、旬を迎えたまだい（天然）が４月に引き続き、５月も順調に入荷したことから、価格が１２％下回り、消費者が買い求めやすい価格となった。また、刺身で美味しいけんさきいかは、長崎産の豊漁により入荷増加したことから１７８％上回ったため、価格は１６％下回った。 ６月は梅雨入りとなり、愛媛産、徳島産を主体にはもの入荷が本格的に始まり、旬のいさき、まあじも順調に入荷している。 ７月は、祇園祭（別名「はも祭」とも呼ぶ。）が始まり、はもの消費がピークを迎えるとともに、７月２日は、たこを食べる半夏生、７月２４日は、うなぎを食べる土用の丑の日があり、消費の拡大が期待される。
冷　　　凍　　　魚	５月の総入荷量は、前年同月と比べ、旺盛な海外需要の影響などから１１％下回り、円安の影響などから平均単価は４％上回った。 品目別には、冷えび、冷するめいかは、価格が高値で安定していることから需要が伸びず入荷減少した。一方、脂の乗ったノルウェー産冷さばの漁獲枠拡大により、入荷が８３％上回ったため、価格が２１％下回った。 ６月に入り、円安がさらに進んだことから、輸入物が主体である冷凍魚は、値上がりが懸念される。

加 工 水 産 物	5月の総入荷量は、前年同月と比べ12%下回ったことや、原材料価格の高騰などの影響から、平均単価は11%上回った。 品目別には、旬を迎えたほたるいかは主産地である富山の漁獲不振により入荷減少したことから48%下回ったため、価格が53%上回った。また、春の祭事には欠かせない塩さばは順調に入荷し、価格が前年並みに推移した。ちりめんは、4月、5月のしらす漁が不振だったことから、入荷が少なく価格が12%上回ったが、6月に入り、漁獲が増え始めているので、入荷増加が見込まれる。
-----------	--

※鮮 魚：鮮魚，貝類，淡水魚

※冷凍魚：冷凍魚（鯨肉を除く）

品目	市況の概要
(鮮魚主要品目の動向)	
ま あ じ	愛媛，三重で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月比と比べ６％下回ったため，価格は１２％上回った。
ま い わ し	富山，和歌山で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月比と比べ３５％上回ったため，価格は２０％下回った。
さ ば	千葉，三重で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月比と比べ２３％下回ったため，価格は３％上回った。
す る め い か	石川，長崎で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月比と比べ１６％上回ったが，中型物が主体で荷動きが良かったため，価格は５％上回った。
太 物	総入荷量は，前年同月と比べ３％上回ったが，単価高の国内物が増加したことから，価格は１０％上回った。
け ん さ き い か	長崎，宮城で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月比と比べ１７８％上回ったため，価格は１６％下回った。
あ ま だ い	長崎，山口で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月比と比べ５％下回ったため，価格は１４％上回った。

(冷凍魚主要品目の動向)	
冷 さ ば	入荷量は前年同月と比べ８３％上回ったため、価格は２１％下回った。
冷 す る め い か	入荷量は前年同月と比べ４０％下回ったが、需要が伸びず、価格は３％下回った。
(加工水産物主要品目の動向)	
塩 さ ば	入荷量は前年同月並みだったため、価格も前年並みで推移した。
身 欠 に し ん	入荷量が前年同月と比べ５％下回ったが、需要が伸びず、価格は７％下回った。